ライブラリ 現代の法律学=A13

刑法総論

第3版

小林 憲太郎 著

新世社

はしがき

本書は『刑法総論〈第2版〉』(2020)の改訂版であり，その本質的な内容に変更はないが，改訂作業にあたって次の3点を意識した。

第1に，これは当然のことであるが，第2版刊行後の立法および学説・判例の動向を記述に反映させた。

第2に，第2版でもまだ言葉足らずの部分が多いとの指摘を読者諸賢から頂戴したので，さらに言葉を補って，初学者や実体刑法の解釈論から遠ざかっている実務家の方々にもすぐに趣旨が伝わる「親切設計」とした。

第3に，自説の根幹部分は変わらないものの，その論証に際しては，自説が誤っているかもしれないという「おそれ」を強くもつようにした。私は第2版刊行後，「実務・学説・目的的行為論(1)～(3)」判例時報2565号(2023)105頁以下，2567号(同年)95頁以下，2568号(同年)96頁以下を執筆し，わが国の実務に自説でなく反対説のひとつが伏在することを明らかにしたが，その過程において，反対説にも相応の説得力があることを感じたからである。もちろん宗旨替えではないけれども，自説の正しさに確信をもてなくなった。

この度の改訂にあたっても，新世社の清水匡太氏に大変お世話になった。記して感謝申し上げる。

2025年7月8日

著　　者

目　次

はしがき …… i

序　章　刑法および刑法総論の意義　1

第 1 章　刑法（刑罰）の目的および基本原理　5

1.1　刑法（刑罰）の目的 …… 5
1.2　刑法（刑罰）の基本原理 …… 11
1.3　犯罪論の体系 …… 23

第 2 章　構成要件論――総説　27

2.1　構成要件の概念と機能 …… 27
2.2　主　　体 …… 30
2.3　構成要件の種類 …… 34

第 3 章　構成要件論――各説　43

3.1　行　　為 …… 43
3.2　結　　果 …… 45
3.3　因果関係 …… 45
3.4　不作為犯 …… 61

第 4 章　違法性とその阻却　79

4.1　総　　説 …… 79
4.2　正当行為 …… 84
4.3　正当防衛 …… 89
4.4　緊急避難 …… 123

4.5 被害者の同意 …… 137
4.6 実質的違法性阻却 …… 159

第 *5* 章　故　　意　163

5.1 総　　説 …… 163
5.2 具体的事実の錯誤 …… 172
5.3 抽象的事実の錯誤 …… 180
5.4 違法性阻却事由（正当化事情）の錯誤 …… 185

第 *6* 章　過　　失　187

6.1 過失犯の構造 …… 187
6.2 過失犯の成立要件 …… 195
6.3 信頼の原則 …… 203
6.4 管理・監督過失 …… 208

第 *7* 章　責任とその阻却　211

7.1 責任の意義 …… 211
7.2 責 任 能 力 …… 216
7.3 原因において自由な行為 …… 220
7.4 違法性の意識の可能性 …… 226
7.5 期待可能性 …… 234

第 *8* 章　未　　遂　237

8.1 総　　説 …… 237
8.2 実行の着手時期 …… 240
8.3 不 能 犯 …… 254
8.4 中 止 犯 …… 262

第 9 章　共　　犯　283

9.1　総　　説 …… 283
9.2　間 接 正 犯 …… 284
9.3　共犯の処罰根拠と従属性 …… 302
9.4　共犯の因果性 …… 313
9.5　共同正犯の成立要件 …… 329
9.6　共犯論の諸問題 …… 348

第 10 章　罪　　数　363

10.1　総　　説 …… 363
10.2　本来的一罪 …… 364
10.3　併 合 罪 …… 365
10.4　科刑上一罪 …… 368
10.5　包 括 一 罪 …… 371
10.6　罪数論の諸問題 …… 377

第 11 章　刑法の適用範囲　381

11.1　総　　説 …… 381
11.2　刑法の時間的適用範囲 …… 382
11.3　刑法の場所的適用範囲 …… 384

第 12 章　刑 罰 論　389

12.1　刑罰の種類 …… 389
12.2　刑罰の適用 …… 396
12.3　刑罰の執行 …… 396

事 項 索 引 …… 397
判 例 索 引 …… 407
著 者 紹 介 …… 416